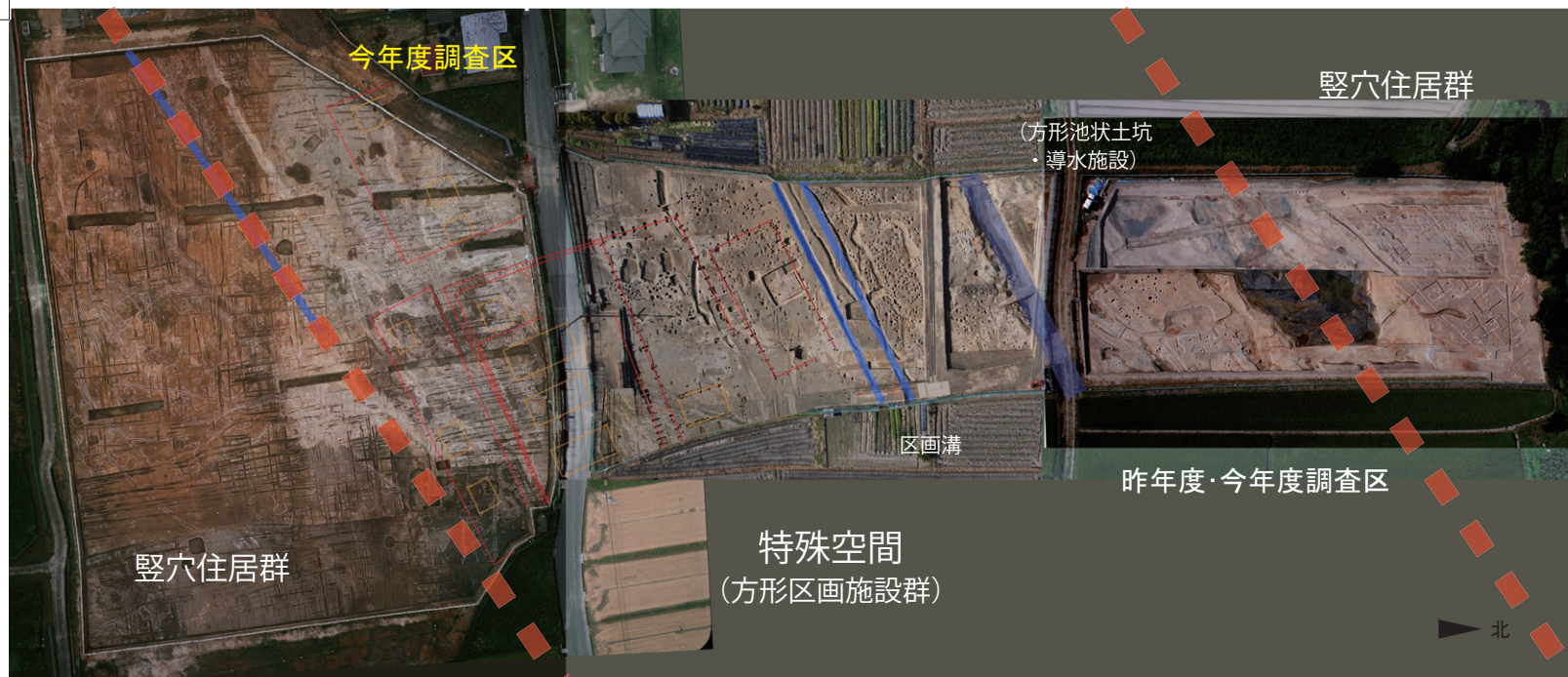




京奈和自動車道御所区間係・池之内地区

御所市 あきつ 秋津遺跡

現地説明会資料



秋津遺跡は、京奈和自動車道御所区間建設に先立つ調査によって、昨年度確認された遺跡です。古墳時代前期（4世紀前半頃）を中心とする方形に巡る塀状の遺構（方形区画施設）や、溝と流路で北に隔てられた竪穴住居群が見つかりました。今年度の調査は、その南側において、方形区画施設の連続性の確認と、その規模の把握を主眼に置いて行いました。

調査成果としては、昨年度検出した方形区画施設3基に、さらに3基を加え、計6基としたことのほか、2基については昨年度検出分からの連続性を確認し、それらの西南隅を検出できたことによって、規模がそれぞれ南北に32m、50mであることが判明しました。これに対し東西への広がり50m以上となることは確実です。また、南辺をほぼ同じ位置に固定しながら、少なくとも3回の造り替えがあったこともわかりました。したがって、20～30年毎に造り替えのおこなわれるような施設であった可能性があります。

何度も造り替えられる塀状の区画の中には何があったのか。こうした素朴な疑問に答えられるような遺物の出土はほとんどありません。少なくとも柱筋のそろうた掘立柱建物が同時存在していたであろうと考えられるほかには、側柱に溝状の掘りかた（布掘）をもつ梁行7mもあるような切妻造りかと思われる大型建物があったようです。なお、その大型建物を取り壊した後には、竪穴住居がつくられています。

さて、こうした塀状の区画で囲まれた特殊な遺構群の性格は何であったのでしょうか。祭場とする意見もあれば有力首長の居宅とする考えもあります。いずれにせよ、大型建物を囲い込むように、何度も同じような構造の塀が造り替えられていることから、機能的に限られた使い方をされるような特殊な空間であったことは間違いないでしょう。その規模は南北の区画溝の間の距離が約100m、東西に120m以上となります。

古墳時代中期になって突如、この一帯には「葛城氏」が台頭し、巨大前方後円墳である室宮山古墳が造られますが、その前段階を、秋津遺跡は雄弁に物語ってくれるでしょう。

御所市 秋津遺跡 現地説明会資料

2010年11月28日

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地
電話：0744-24-1101（代表）
<http://www.kashikoken.jp>

2010年11月28日

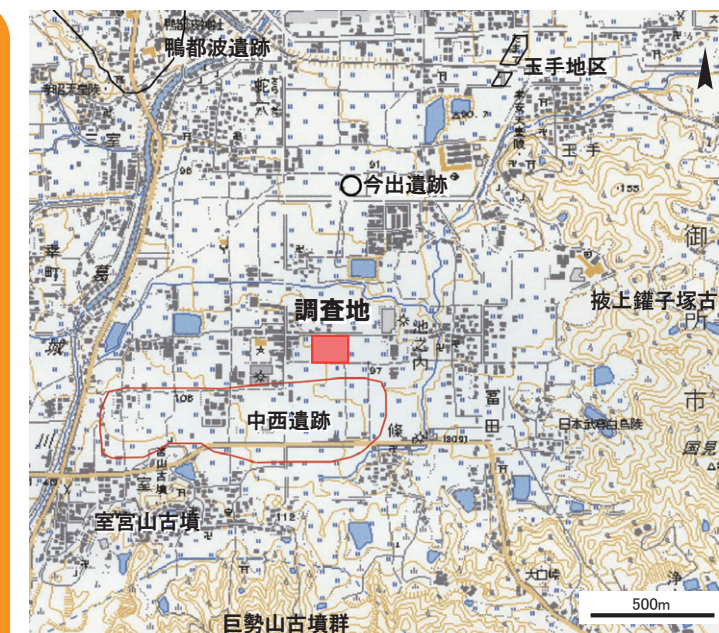
奈良県立橿原考古学研究所

今年度調査区



ほうけい くかく しせつ
方形区画施設

堀の基礎となる中軸小溝の底には、杭の痕跡があります(2)。さらに、これを2本の柱で挟んで支えたようです(1)。



今回の調査地と周辺の遺跡



昨年度調査区



建物

通常よくみられる竪穴住居(4)のほか、溝の中に柱を据えて固定した大型の掘立柱建物(3)などがあります。